

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成26年1月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要
【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。

（「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数）

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は5のまま変化なし。「減少した」業種は4から7に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は16から2に減少。「減少した」業種は6から19に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は6から1に減少。「悪化した」業種は5から10に増加。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は10から8に減少。「減少した」業種は5のまま変化なし。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は13から8に減少。「減少した」業種は6から10に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は10から5に減少。「悪化した」業種は7から8に増加。

製造業

豆腐製造

【県内全域】

今年度で廃業する町店業者が過去に例を見ないほどに多い。油揚げ等、製造業部では売上は順調だったが、光熱費や原材料等の高騰が利益に影響を及ぼした。

酒類製造

【県内全域】

東京近郊においては、景況感上向きなるも、千葉の郡部においては低迷から脱却できず。高額商品は増加傾向なるも反面ボリュームゾーンの商品が低調。

印刷

【県内全域】

景況の変化について、1月の県内印刷会社受注売上は12月と比較して若干悪化した模様である。12月は年内納品の受注も多く、その分年明けの動きが鈍いのではないかと考えている。さらに今年度は年始の休みも長く、且つ動き出しも非常に鈍い状況だった。1月の最終週当たりから動き出しているように感じるので、2月から年度末にかけては仕事が動き出すと考えている。前年同月から見ても下がっている。

電気鍍金

【県内全域】

大手企業の景況は良いようだが、

中小企業では、消費税率の改正での駆け込み需要か、復興予算の執行での関係で建設関連の建築金物

また大手自動車関連会社の自動車部品等の発注が増加している、但し、加工等に使用する薬品等は円安の関係で相当高騰しているのので収益は好転していないのが実情である。

鉄工

【千葉】

各社動向では、全体としてこれまでと同様に横ばい推移が続いている。足元で一部売上増加している企業が見られるが、そのことが増益に直結していないことが今ひとつ盛り上がりには欠ける要因と思われる。

機械部品製造

【流山】

受注は増加しているようであるが、継続性までは見通しがつかない状況である。

機械部品製造

【柏】

半導体関連は好調維持。その他特に変化なし。好決算(改善含む)を背景に開発案件の動き、増加及び進展のスピードが速くなっている。

金属製品製造

【船橋】

売上高は回復傾向にあるが、一気に抜け出し域には達していない。

売上高も一部には増加もみられるが、全体には及んでいない。

【探石】

【県内全域】

景況の変化について、1月は出荷が前月より若干上回るものの、港湾事業の入札時期の遅延などにより厳しい状況が続いている。今後、地震対策やオリンピック開催に伴う東京港、川崎港、横浜港スーパードック等の改修事業に期待ができるもの、事業規模が小さく、当分厳しい状況に変わりなし。

【土砂採取】

【県内全域】

前月比では前回の12月の状況報告等と大きな変化はない。前年同月比では、売上高の増加、販売価格の上昇、設備創業殿上昇傾向も明るい兆しが見えてきた地域もあるが、以前厳しい状況にある。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】

オフィス家具・OA機器等で消費税増税前の需要が出てきている。

【建築材料卸売】

【県内全域】

2013年暦年ではセメント国内販売前年比106千葉104。東北・沖縄・九州が好調南関東はパイは大きいが前年比は低水準であった。官公需予算増に伴い公共投資建設

需要が牽引しているが、民需は若干増に留まり最悪は脱したものの、民間の本格景気回復は未だしであることが判る。消費税アップによる中折れ懸念大。

【自動車解体】

【県内全域】

年明け以降で、スクラップ価格更に下げているが、前年比ではまだ高い水準にある。景況感に変化なし。

【卸売】

【茂原】

景気の上昇はまだまだのように思われる。大企業においては好景気と言われているが中小企業に行き渡るまで、まだまだ時間がかかりそうである。

【小売】

【柏】

全体的に消費マインドは上向いているようだ。

【電気機器小売】

【県内全域】

12月後半から景気が後退した感がある。メーカーには回復感があるが、量販、個店ともいまだに回復感はない。

【青果小売】

【千葉】

年明け商品の動きは良かったが、半ばより鈍りだした相変わらず、売上は高水準だが、収益面では低水準となっている。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】

出品・落札と共に前年を上回りプラスに転じた。しかしながら、制約単価はマイナスで、高額車の動きが鈍い状況。輸出は以前、好調を維持。消費税アップまではオークション出品も伸びていることが予想される。

【小売】

【東金】

ファッション関連品は、寒い日が続いたので、冬物が動いている価格帯が下がっている。冬物バーゲン時期が早くなっているのの後半はあまり伸びなかった。食品関係は、値上がり傾向が続いている。組合員の資金繰りが厳しくなってきた。

【小売】

【野田】

新規大型店の影響で正月3日間の売上と客数が大きく落ち込んだ。特に、衣料品などの買い回りがそのあたりを受けた。

【小売・サービス】

【柏】

商店会的には物販に於いても、12月が全く季節指数が平月と変わらなくなってしまう、数字がとれなくなってきた1月も諦めの空気があったが、寒さが来て季節商品を扱っている店舗では昨年並みか微増の事業者が多かったようだ。

【建設揚重】

【県内全域】

需要増による供給不足状況、受注単価も地域差はあるが上昇してきた。

【遊覧船】

【鴨川】

年始めの休日の関係で昨年より欠航が多かった。全体的に少しずつ戻ってきているようだが、依然として厳しい状況は変わらない。圏央道のある程度の完成で流れが変わってきているようだが、見極めはついていない。

【一般廃棄物処理】

【千葉】

繁忙期を終え、前月に比べると落ち着いた月となったが、同月と比べると過去2年間は景況が好転している。

【建設】

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注は4018百万円であった。これは前月比でマイナス3459百万を大幅な減少であった。前年同月比でもマイナス1812百万の現象となった。原因としては、受注者と受注者の積算単価の相違で不調が多かった。

【輸出入】

【県内全域】

1月の売上は前月比は少し減少で、前年同月比は約10%ほどの上昇であった。